

## 産地収益力向上支援事業（広域推進）に関する事業評価票

事業実施主体名	新技術の内容	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容	成果目標の達成状況				具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
				基準年 (計画策定時) 平成24年	目標年 平成30年	目標値	達成率		
埼玉県	トルコギキョウの低コスト生産技術の普及	25年度	実証ほを核としてトルコギキョウの低コスト生産技術の導入した面積の増加	0ha	0.3ha	1.5ha	20%	「トルコギキョウの低コスト冬季計画生産技術」の実証展示ほの設置農家を中心に技術の普及・定着を図った。県内の他地域の農林振興センターを通じてトルコギキョウ生産者へ当該技術の有利性を説き栽培御拡大をすすめた。	低コスト生産技術について栽培マニュアルを活用した個別巡回指導等を行い、普及を図ったが温度管理に手間がかかること等から普及が進まず、目標を達成できなかった。このため既存の産地に加え、新たな作目の導入を検討している産地に対して、農林振興センターや県内の花き生産者団体等による低コスト生産技術の有利性に関する情報発信等を内容とする改善計画を策定させ、再度評価を行う。

## 産地収益力向上支援事業（広域推進）に関する事業評価票

事業実施主体名	新技術の内容	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容	成果目標の達成状況				具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
				基準年 (計画策定時) 平成24年	目標年 平成30年	目標値	達成率		
埼玉県	くり「ぼろたん」の生産拡大	25年度	「ぼろたん」への改植及び遊休農地への新植	14ha	40ha	70ha	57%	生産者の高齢化やクリの高樹齢化によりクリの生産力が低下している。そこで意欲的な生産者に「ぼろたん」への改植を推進した。また、遊休農地の解消対策として「ぼろたん」の導入を推進した。 現地検討会 2回	普及推進上の課題である「黒変果」対策や「ぼろたん」の特性を活かした早期成熟化技術等について個別巡回指導等により普及を図ったが、技術の内容を理解し切れないこと等から普及が進まず、目標を達成できなかった。このため、理解しやすい普及資料を作成するとともに、既存の産地に加え、新たな作目の導入を検討している産地に対して改植や遊休農地への新植を推進していくこと等を内容とする改善計画を策定させ、再度評価を行う。

## 産地収益力向上支援事業（広域推進）に関する事業評価票

事業実施主体名	新技術の内容	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容	成果目標の達成状況				具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
				基準年 (計画策定時) 平成23年	目標年 平成30年	目標値	達成率		
埼玉県	ナシジョイント仕立て ナシ早期成 熟化技術	24年度	ジョイント仕立技術 を導入したナシ作付 面積の増加	1.2ha	5.5ha	10.0ha	55%	生産者の高齢化やナシの高樹齢化により生産性が低下している。そこで、意欲的な生産者に対して早期に収量を確保できるジョイント仕立及び早期成熟化技術による改植を推進した。 巡回指導 5回、現地検討会 1回、成果検討会 1回	ジョイント仕立技術のメリットに関する個別巡回指導等を行い、普及を図ったが、苗木の新梢が十分に伸長せず管理が難しいこと等により普及が進まなかったことから目標を達成できなかった。このため、現地検討会を通じた苗木の管理方法の普及等を内容とする改善計画を策定させ、再度評価を行う。

産地収益力向上支援事業（広域推進）に関する事業評価票

事業実施主体名	新技術の内容	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容	成果目標の達成状況				具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
				基準年 (計画策定時) 平成23年	目標年 平成30年	目標値	達成率		
長野県	雑草イネ防除対策技術の普及	24年度	雑草イネの被害の解消	330ha	98.9ha	100ha	101%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の普及センターが主導し、JA、市町村等関係機関の推進体制をさらに強化した。</li> <li>また、実被害面積の多い地区においては、重点対策地区として、県のプロジェクトチームを中心とした連携体制を再構築し効果が増強できるよう、取組をさらに推進した。</li> <li>・既存対策マニュアルを活用した指導会等の啓発活動の強化や、農業関連施設での掲示をさらに実施した。</li> <li>・大学や農研機構等と連携し、さらなる情報収集を図るとともに、各地域ごとの取組を支援し、県内広域での効果検証や優良事例の共有の普及活動を推進した。</li> </ul>	成果目標は達成している。

産地収益力向上支援事業（広域推進）に関する事業評価票

事業実施主体名	新技術の内容	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容	成果目標の達成状況				具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
				基準年 (計画策定時) 平成23年	目標年 平成30年	目標値	達成率		
長野県	フェザー苗を利用したりんご新わい化栽培による早期多収	24年度	フェザー苗を利用したりんご新わい化栽培による早期多収	67ha	378ha	378ha	100%	<p>現地では、10a250本植えの技術が採用されているため、それを前提とした改植指導を推進した。特に育苗中の苗木及び定植直後の苗木が低温枯死しないよう技術対策の徹底を図り、着実な面積拡大を進めた。</p> <p>また、250本植えを前提とした指導を県機関も行った。県果樹試験場でも鋭意技術開発に取り組んでいるため、いち早く得られた知見を農業革新支援専門員・農業改良普及センターで普及した。</p> <p>J Aグループでは、技術指導とあわせて、国の果樹経営支援対策事業の推進により、面積拡大を図った。</p>	成果目標は達成している。